

国指定史跡

黒井城跡



下館跡（興禅寺）



歴代黒井城主

●赤松貞範

赤松則村の次男。父とともに建武の乱では足利尊氏について戦功をあげて、播磨伊川庄・丹波春日部庄ほか二十一ヶ所を領し、美作の守護職に任じられました。黒井城は赤松貞範が丹波春日部庄を領して以降に築城されたと考えられています。

●荻野秋清

酒梨の留堀城を館とし、春日部庄を中心に天田郡の一部をも支配していました。しかし、家臣の長谷城の城主秋山修理太夫が八上城の波多野晴通によって討たれたことや、敬信の念が篤く、領内の円通寺などに領地を寄進し経済基盤を削ったことから家臣に不信を抱かれ、天文23年(1554)1月2日、甥の荻野直正が中心となった謀反を起こされ亡くなりました。なお、死後は直正が建立した清安寺(現存せず)に弔われています。

●赤井直義

荻野直正の次男。長男の悪七郎が若くして亡くなっていたため、直正の死後に嫡男として黒井城主となります。しかし、未だ9歳であったため叔父の赤井幸家が後見人となり、明智光秀の再度の攻勢に備えていました。黒井城落城後は伊勢国津藩主藤堂高虎に仕え、赤井姓を名乗ります。また、直正と同じく悪右衛門と称していました。

●堀尾吉晴

山崎の戦いの後、天正10年(1582)夏、羽柴秀吉の軍代として黒井城下館に入り、奥丹波の統治にあたりました。この時に戦火で焼けた柏原八幡神社の造営奉行となり社殿を再建し、所領を寄進しています。

●赤井時直

荻野直正の末弟。黒井城落城時は後谷城主だったと考えられています。黒井城落城後の天正12年(1584)4月、小牧・長久手の戦いで徳川方に呼応して一揆を策動し、黒井城と余田城に立て籠りました。この時、徳川家康から丹波国のことは赤井氏の存分にまかせると約束されています。慶長6年(1601)、一族の山口直友が丹波国奉行に任じられ、この約束が果たされました。



歴代城主も見ていた雲海と、黒井（上）白毫寺（下）の町並み

荻野悪右衛門直正

黒井城の城主であった荻野直正は、甲斐武田氏の甲州流軍学書『甲陽軍鑑』の「名高き大将衆」13人に数えられ、「丹波ノ赤井悪右衛門」と記され、近隣諸豪から「丹波の赤鬼」と呼ばれて恐れられていました。

直正は幼名を才丸といい、享禄2年（1529）に丹波市氷上町新郷・谷村の後屋城主赤井忠家の次男として生まれました。

丹波市春日町朝日の朝日城を拠点とする荻野十八人衆の盟主として荻野家に入り、荻野姓を名乗ります。

そして、天文23年（1554）正月2日、年賀の席で叔父の黒井城主荻野秋清を倒して黒井城主となり、悪右衛門を名乗りました。永禄8年（1565）には、丹波守護代の八木城主の内藤宗勝を倒し、勢力を拡大させていきました。

折しも、勢力を伸ばしてきた織田信長に対して一度は服命しますが、但馬此隅城の山名氏との関係が悪化し、これが一因で信長と敵対することになります。

信長は、天正3年（1575）明智光秀を総大将として丹波平定に派遣しました。光秀は、八上城主波多野秀治ら丹波の国人衆の大半を服従させて黒井城を包囲し、来春には落城するという噂が出る状態でした。

しかし、翌4年正月15日、波多野秀治が寝返って光秀の陣を急襲し、総崩れとなった光秀は壊滅的打撃を受けて栗柄峠方面へと退却を余儀なくされました。これは後に「赤井の呼び込み戦法」と呼ばれています。

第1次丹波攻めの後、信長は直正を許しましたが、その間も直正は武田氏・石山本願寺・吉川氏らの反信長勢力と連携を取っていました。

しかし、直正は天正6年（1578）3月9日病死しました。一説には、首切り疔を病んでいたといわれています。

直正の訃報はすぐ京へも伝わり、これを機に光秀は再度丹波攻略を開始し、3月20日八上城を包囲して波多野氏への兵糧攻めが始まります。八上城は6月1日に落城し、続いて8月9日には黒井城もついに落城しました。

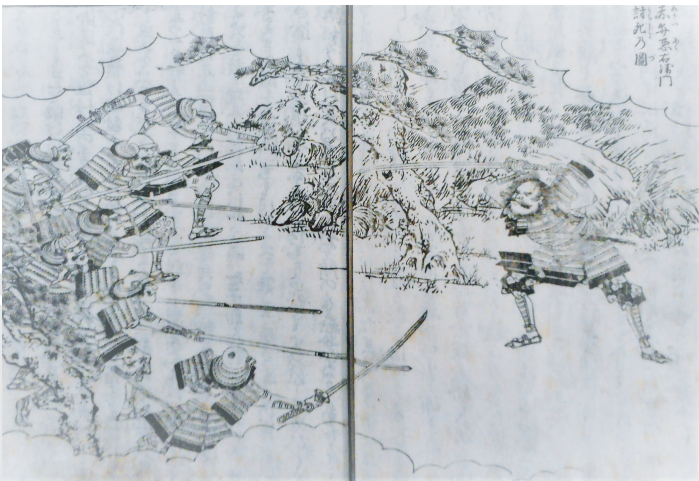
斎藤利三と春日局

天正7年(1579)黒井城落城の後、戦後統治にあたったのが、明智光秀の重臣斎藤利三です。利三は下館（現在の興禅寺）を陣屋として奥丹波一円の治安にあたりました。

この興禅寺には黒井城の城門の部材を用いて建てられたと伝わる総門が残されており、北の城下にある白毫寺には利三の軍役容赦の下知状が残されています。

黒井城下に活気が戻ってきたころ、利三は亀山城から妻お安と子供たちをこの陣屋に呼び寄せました。そして、この年の暮れも間近い頃、生まれたのがお福、後の春日局と言われています。

春日局は、三代将軍家光の乳母を務めるなど、大奥の実権を握りました。



その他ゆかりの人びと

●武田勝頼

甲斐の武田勝頼と荻野直正の間には、反織田勢力として情勢を知らせ合う書翰の往来がありました。東西呼応して立ち上がろうと跡部勝資・長坂光堅など武田の密使がたびたび来城しました。

●吉川元春

中国の雄、毛利輝元・吉川元春・小早川隆景と荻野直正を中心とする丹波・但馬の諸豪は信長打倒への上洛作戦「三道併進策」の盟約を結びました。吉川家文書などにその緊迫した動静がうかがえます。毛利の外交僧安国寺恵瓊も度々当地を訪れています。

●顕如

信長と敵対する直正は、石山本願寺とも気脈を通じていました。本願寺第11宗主の顕如の家老であり、一向一揆を指導していた中心人物の一人である下間頼廉との間につぶさに情報のやりとりがあり、その書状が残っています。



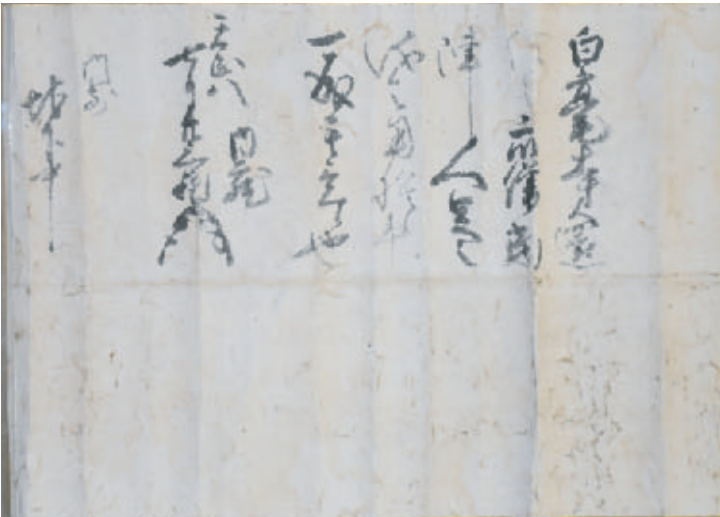
武田勝頼書状 荻野悪右衛門宛



黒井城関係年表



西暦	紀年	事 項
1335	建武2	赤松貞範、丹波国春日部荘を領す。
1542	天文11	赤井才丸、朝日村荻野十八人衆の盟主となり荻野直正を名乗る。
1554	天文23	直正、叔父の黒井城主荻野秋清に謀反を起こし、自ら黒井城主となる。これにより号を悪右衛門と称す。黒井城の改修に着手する。
1557	弘治3	兄赤井家清戦傷により死去。直正、赤井一族の盟主となる。
1565	永禄8	直正、多紀郡を除く丹波地域を支配する。
1568	永禄11	信長、足利義昭を奉じて入洛。直正、信長に降る。将軍足利義昭、関白近衛前久を京より追放する。直正、前久を庇護し、前久の妹を娶る。
1573	天正元	直正に、足利義昭の使者御内書を持参する。甲斐の武田勝頼、信長打倒の親書を差し出す。
1576	天正4	明智光秀、黒井城を包囲。従う丹波勢反旗をひるがえし織田軍大敗を喫す。
1577	天正5	信長、明智光秀、細川藤孝に再び丹波攻略を命じる。
1578	天正6	秀吉、家臣の脇坂安治を黒井城に遣わし、降伏勧告をさせる。直正説得に応じず、引き出物に赤井家重代の家宝「貂の皮」を安治に与える。3月9日、直正、首切り疔により病没する。
1579	天正7	織田軍氷上郡に侵攻し、黒井城の先鋒支城を落城させ、8月9日黒井城総攻撃を開始。同日夜、落城する。光秀、黒井城南麓の興禅寺に陣屋を設け、家臣斎藤利三に代官を命じ氷上郡地方の統治にあたらしめる。
1582	天正10	本能寺の変の後、秀吉の家臣、堀尾吉晴が黒井城に入城する。
1584	天正12	小牧長久手の合戦に家康に呼応して直正の末弟時直が黒井城に立てこもり一揆を策動する。



斎藤利三下知状（白毫寺蔵）



春日局画像（模写）

丹波市教育委員会

〒669-3198 兵庫県丹波市山南町谷川1110
TEL 0795-70-0819